

ギリシャ・エーゲ海クルーズ・7日間

江崎友子

2017年8月、あすなろ大学の旅友、縄島スミ子さんと「神話の国ギリシャ島めぐり」に出発した。体力を考えてクルーズの旅にしました。直行便はなく成田を夜間に飛び立ちトルコのイスタンブール経由で、ようやく朝アテネ到着。睡眠不足です。時差は夏時間で6時間遅れです。



すぐにピレウス港からクルーズ船に。私たちのツアーが最終乗船で手荷物検査など諸手続きも混雑なく終了し11時出航。すぐに避難訓練開始です。救命胴衣を教えてもらいながら着ました。救命ボートは人員の2倍あるそうで反対側に傾いても大丈夫だそうです。

ミコノス島・・・エーゲ海の島の代名詞・6つの風車



海の美しいこと、人の多いことに驚く。海沿いのレストランが賑わっている。路地に入ると洋服・アクセサリーなどのショップがずらり。ここには遺跡はない。6つの粉ひき風車は危険防止のため、羽根はついていない。ミコノス島は風が強いのです。そのために寄港できないこともあるそうです。

島内には400以上の教会があるそうです。帰国してみると夕日が沈む海辺のレストランで食事をすればよかったと少し後悔が・・・

トルコのクシャダスへ寄港。ゆっくりと朝食をして街へ出る。広いバザールをぶらぶら歩く。



聖人ヨハネが暮らしたパトモス島に16時着。「聖ヨハネ修道院と黙示録教会」のツアーに参加
ローマ人に追放された聖人ヨハネが流された場所と伝えられ、洞窟で暮らしている間に天啓受け、聖書の黙示録を書いたとされている黙示録教会。丘の上には修道院があり共に世界遺産に登録されている。内部の写真は撮影禁止で残念ですが、巖かで素晴らしかったです。信者にとって一生に一度は訪れたい聖地だそうです。また丘からの眺めは青い海に私たちの船も見えて急坂を登った甲斐がありました。



ロードス島・「リンドス村のアクロポリスと騎士団長の城塞」のツアーに参加

ロードス島には古代3大都市があり、今も現役の町として機能しているリンドスはアクロポリスがあり、カラフルな家並みなど風光明媚で人気がある。急坂を登るので足に自信のない人は驢馬で。

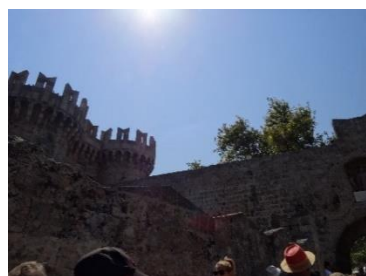


驢馬の折り返し地点がアクロポリスの入り口。大理石の階段です。駅の改札口のチケット挿入できる装置があるのに係員が対応するのが「え〜？」でした。太陽がまぶしく暑いですが、日蔭はとても涼しい。



ガレー船（ローマ時代の奴隷船）のレリーフ。サモトラケのニケと同じ作者。眼下にエーゲ海。途中に教会があり、現地ガイドが私たちだけに案内をしてくれました。なかなか好青年でした。

島の中心ロードシティは近代的な建物が並び新市街と12mの厚さの城壁に囲まれた旧市街がある。ヨーロッパに現存する中世防衛施設の最大の施設。城壁を登ることもできる。



重厚な中世の街並み・騎士団長の宮殿・騎士団通り

フランス語族館



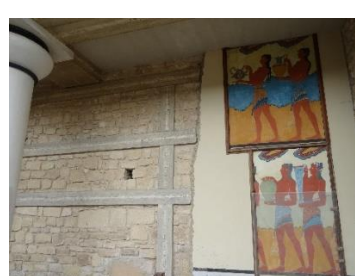
小さな土産店が軒を連ねる。ブーゲンビリアと青いエーゲ海。 澄み切った海！！感動！
夕食後に船長主催のカクテルパーティがあり、少しお洒落をして参加する。

イタリア、フランス、スペインなどの十字軍が集結

5日目クレタ島・クノックス宮殿・・・ギリシャ神話の迷宮は実在した。

私は以前ギリシャ神話を信じてトルコのトロイア遺跡を発見したシュリーマンについて「大航海」をしたことがあり、ギリシャ神話について少し学んだ事があります。その中で「クレタのミノス王が一度入ったら二度と出ることができない迷宮を作り、ミノタウロスという牛頭人身を閉じ込めた」という神話を読みました。物語とおもわれていたが、1900年に始まったイギリスの考古学者によって発掘され約3700年前の宮殿が発掘され復元されています。1200以上の部屋があったそうです。私の想像をはるかに超えています。

神話の続きは、アテネの英雄が王の娘と結婚を条件に助言を得て脱出できた。クレタ王国はアテネを隷属する先進国でした。



クレタ島は東西に細長く300kmです。アクロポリス見学後はイラクリオンをぶらりと散歩しました。画家エル・グレコ（本名でなくギリシャ人という意味）はここ出身。



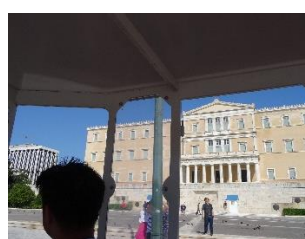
いよいよサントリーニ島です。入港シーンがお勧めということで16時からデッキへ。海が美しい。



猫の家もお洒落

サントリーニ島は赤茶けた断崖絶壁のてっぺんに雪のように白いものが・・・びっしりと白い家と分かったのはだいぶ近づいてからでした。いろは坂のような道をバスで登りイアの街へ。

アテネへ



近代オリンピック第一回会場 のんびり観光トレインに乗りました・車窓から国会議事堂
ギリシャの古代遺跡のハイライト・アクロポリス遺跡へ。アクロポリスとは「高い丘の上の都市」



ネットでBS朝日「地中海6つの旅・大地の歴史をさぐる～石と建築」を検索しました。地質学者のイアン・スチュアートは、『エジプトは石灰岩の土地なので三角形のピラミッドを造り、ギリシャは大理

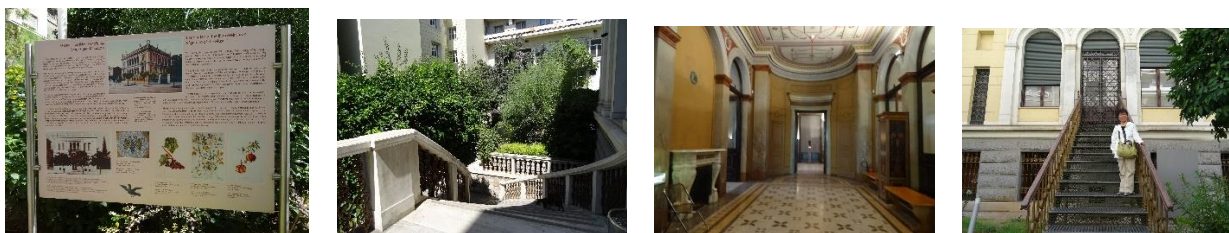
石で四角いパルテノン神殿を造った。大理石は石灰岩がマグマの熱で変質した変成岩で強度があり、細かい彫刻や、柱、梁などを作ることが可能だった、と。ピラミッドやコロッセオをみても地層と関係があると想像していませんでした。アクロポリスは、初め要塞として造られ紀元前8世紀にアテネの守護神アテネや、ゼウスなど複数の神を合祀していた。



この後は新アクロポリス博物館に入場。ガラスの床から遺跡の発掘現場が見える。



リウ・メラトン（トロイアの館）（現在は貨幣博物館・・・シュリーマンが晩年過ごした家）



なだらかなスペイン階段、床のモザイク、天井の壁画・シュリーマンの家は本人が「最高のものを」と注文し建築、各国の王侯貴族を招待し、賓客の母国語で会話を楽しんだ家です。

旅を終えて

船で4泊という短い日程ですが、すべて旅行会社のスケジュールでお任せという旅でもないのでもう少し下調べが必要でした。その点、一人参加の人はたくましくオプションに参加せず、自分の行きたいところへ行き、食べたいものを食していたようです。

アテネの自由時間に私の希望で行った、シュリーマンの家は通常4時まで開館しているはずが3時閉館（5分経過していた）でとても残念でした。それでも、ちらっと覗く事が出来て幸せでした。

今回は青い空とエーゲ海の青の美しさと、それぞれの島の雰囲気を楽しみ、古代歴史・建築・芸術に圧倒された旅でした。最後に方向音痴の私をいつも助けてくれたしっかり者のスミ子さんに感謝です。

2017・8

